

真の知識(マルコ 12:18-27)

復活はないと主張していたたちサドカイ人たちがイエス様のところに来て、このように声をかけました。「モーセの教えによりますと、長男が子どもを残さずに死んだ場合、次男がその長男の奥さんと結婚して子どもを生まなければいけないと書いてあります。もし7人兄弟の場合、次男も子どもを残さずに死んだ、それで三男... そういうふうには7人がみな一人の女性と結婚して、最後にその女性も死んだとなると復活の時に、その女性は誰の妻になるのでしょうか。もし復活があるとすれば非常に困ることになるのではないのでしょうか」という意味でイエス様に質問を投げかけました。復活ということはありえないことではないでしょうか」という意味でイエス様に声をかけました。しかし、イエス様を彼らに向かって、「あなたがたは聖書も神の力も知らないのに勘違いしているのではないのか」とおっしゃり、復活のときには、今のような男性、女性、結婚、また家庭というようなものはありません。みな御使いと同じような状態です。まだそれがどういうことなのか明確には分かりませんが、とにかくそのようになるんだよと。だから、あなたがたが心配しているようなことは心配にならないと。それから神様がモーセに「アブラハムの神、イサクの神、ヨセフの神」とおっしゃったでしょう。アブラハムはもう死んで、イサクも死んだのに、アブラハムの神とおっしゃっているのは、アブラハムが死んだのではなくて生きていたということでしょう。神様は死んだ者の神ではなくて、生きていた者の神様だと神様がモーセにおっしゃったのではないかと、イエス様が彼らのある意味、叱るような感じで返事をなさいました。サドカイ人はなぜ復活などはありえないと思ったのでしょうか。彼らは、当時、同じユダヤ人の中でパリサイ派と対立する群れでした。わりとサドカイ人の方が科学的な思考をもって合理的な考えを尊重するグループだったと思います。なので、彼らが科学的に合理的に考えたときに、死んだ人がよみがえるということはないことなんだと思ったでしょう。しかし、イエス様の答えの中で彼らが復活を信じない本当の理由は、聖書を知らないからです。神の力が何かを知らないのに、彼らが信じ込んでいる、これが正解だと勘違いしている科学、合理的な思考、それに囚われて見るべきものを見ることができなかったということが今日の聖書を通して読み取れるようになります。なので、礼拝を捧げている今を生きるレムナント教会の信徒の私たちは、ここから神様のメッセージを聞いて心に留めるようにしなければなりません。

1. 聖書が正しく分かったら、世の論理から自由になり、Only キリストになる。

その神様のメッセージの第1が、だから逆に信者の私たちが聖書を正しく知ることができれば、この世にある論理から自由になり、Only キリストの信仰に立つことができ、勝利できるんだとおっしゃっています。

この世の中にはさまざまな理論、いろいろな主張などがあります。それが正しいのか正しくないのか、合っているのか合っていないのか、必要なものなのか必要ではないかはさておいて、しかもそれが非常に科学的なもので、合理的なものに間違いありません。

1) 見えるもので成り立つ世の論理-科学的、合理的(3、6、11)-限界

しかし私たちが忘れてはいけないことは、世にある理論はそれがどんなものであれ、目に見えるもので成り立っているものなのです。目に見えるものだけを根拠にして証拠にしてアプローチする考え方、それが世にある理論であり、特に科学的な、合理的な考え方は、よりその証拠が明確で、その上に立っているものなのです。しかし、それがいくら科学的、合理的な考え方だとしても、それは見えるものだけに限られるので、裏返しますと神様を離れて以来、人間がすべてだという思い、目に見えるものがすべてなんだ。そして私たちが今生きているこの世界がすべてなんだという大前提の上で成り立っているものなのです。どんな科学であっても、どのような教育の理論であれ、またどのような医学であっても、目に見えるものを基準にして根拠にして、しかも人間がすべてなんだ。神様なんか1mmも入る余地がありません。また目に見えるものがすべてなんだ。この世界がすべてなんだという前提の上で成り立っているものだとことを忘れてはいけません。なので、それがいくら科学であれ、医学であれ、どのような論理であっても必ず限界を見るしかないものなのです。それがこの世にある理論、主張というものです。なぜなのでしょう。科学的なのに合理的なのに。世の中では科学は絶対と信じ込んでいます。残念なのは、礼拝を捧げているクリスチャンの私

たちの中でも、科学と言われると絶対かのように怯える場合があります。科学を無視してはいけません。立派な考え方に間違いありません。しかし、目に見えるものを前提にして成り立っているものなので、それは正解でも絶対でもありません。けれども悪魔サタンは世の中を科学がすべてであるかのように、絶対であるかのように思わせてこの世を動かしているわけです。限界だらけなのに。今日の聖書を通してその科学を取り上げてイエス様にアプローチしていた彼らの考え方、アプローチが穴だらけだということが証明されている場面ではないでしょうか。なぜなのでしょう。なぜサドカイ人たちは、科学が絶対だと思い、復活などは科学から見たときにはありえない、とんでもない話なんだと思ったのでしょうか。その限界に囚われて縛られていたのでしょうか。

2) 霊的世界と霊的事実-へブル 11:3

それは霊的な世界、そして目に見えない霊的事実があるからです。それを知らないからです。なぜ科学に限界があるかと言いますと、目に見えない霊的な世界があり、霊的事実があるにも関わらず、そういうことを全く無視して、あるいは無知なまま目に見えるものだけを証拠にして根拠にして研究を重ねて、その上に成り立っているものなので、必要な物に間違いありませんが、限界だらけのものになるしかないものなのです。サドカイ人から私たちが今日聖書を通して見ているようにそういうものなのです。聖書のへブル 11:3 にはこう書いてあります。「信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです」。どういう話か分かりますか。目に見えるものが目に見えるものによってできたのではなくて、目に見えない力によって目に見えない世界によって現れたものなんだということです。だから進化論というのはものすごく危ないものなのです。進化論は科学ではなくて、すべて目に見えるものは見えるものからスタートしたんだという発想です。だから限界だらけなのです。残念なのは、科学的な考え方をもって聖書を理解しようとする、聖書が理解できないどころか、彼らが信じている信念というものを正当化するために聖書の箇所をそれに合うようなものを抜粋して利用することになります。今日のサドカイ人のように。モーセの律法によりますとと言いながらも、その律法は復活がないということを証明するための箇所ではありません。なのに、そのように利用してしまいます。異端もそうだし、カルト宗教もそうだし、エホバの証人もそうだし。いろいろな聖書の箇所をピックアップしますが、彼らが先に聖書を知らないと必ずと言っていいほど世の論理の奴隷になるしかありません。そこから抜け出すことができません。なのでそこが正解だと思い込んで、それを正当化する道具としてピックアップして利用することになってしまうのです。なのでクリスチャンの私たちは目に見えるものを無視してはいけません。それはちょっと異常者になるでしょう。常識外れのようなものになってはいけません。けれども目に見えるものがすべてだと思い込むのは大きな勘違いです。霊的な世界があり、霊的事実があります。目に見えません。しかし、目に見えるすべてが目に見えないものによってできたものなので、目に見えない世界と目に見えない事実がメインなのです。何が目に見えない霊的な世界、霊的事実なのでしょうか。創造の神様、この世界を目に見える世界を作られた神様は、私たちの肉眼、目では見えない方なのです。これが霊的事実なのです。その神様が作られた最高の被造物が人間で、人間だけが神のかたちに造られました。だから目に見える肉はありますが、たましいは目に見えません。肉よりたましいがメインなのです。人間を人間に定義できるものはたましいなのです。たましいがあるからこそ人間なのです。息をしているから人間ではなくて、ご飯を食べているから人間ではなくて、犬や猫には無いたましいを持っているから人間なのです。けれども、その一番大事なたましいが目に見えない霊的なことなのです。人類、この世界を破壊している悪魔サタンというものも目に見えません。しかし、実際に空中の権威を持ってこの世界を惑わしています。ただの戦争、ただの犯罪ではありません。裏にこのような霊的な世界、霊的な力があって動かされているわけです。天使も目に見えません。特に罪、裁判、法律で扱うさまざまな犯罪、私たちが道徳的に罪と思っているものなどは、全部目に見えるもの、形あるもので認識できるものです。しかし、そのすべての罪の根源である原罪という罪は霊的なものであり目に見えません。誰も感知できないものなのです。しかし、すべての罪、人間の不幸が目に見えない霊的な事実である原罪によって成り立っているということをクリスチャンの私たちは知っているのではないのでしょうか。みな死んだらもう終わりだと思っていたり、死んだら違うものに生まれ変わるとか、いろんなことを考え出しているのですが、人間は一度死ぬと天国なのか、地獄なのかに分かれることになります。その天国と地獄も目に見えません。霊的な世界なのです。こういった霊的な世界、霊的な事実などを全部無視して、目に見えるものだけで成り立っている科学をどうして絶対と信じ込むことができるのでしょうか。悪魔のしわざでなければ無理なのです。なぜそんなに無知な

愚かな道を走るのでしょうか。神様も知らない、人間がたましいを持っている霊的な存在だということも知らない。原罪も知らない。天国と地獄も知らない。悪霊の働きも知らない。そこで何が分かるのでしょうか。

3) 聖書を正しく知ることは-Only キリスト

なので聖書を正しく知るということは、このような霊的な世界、霊的な事実を知り認めるということです。一言でまとめると、聖書を正しく知るということは、Only キリストになることです。このような霊的な世界、霊的な事実が分かれば、目に見えるさまざまなことを参考にして材料にして Only キリストになるしかありません。聖書は Only イエスを私たちに語っているものなのです。長男が子どもを残さずに死んだ。次男がまたその女性と結婚して子どもを生むように。しかし、そこでもだめだったら三男が。ずっとそのようにしなさいとおっしゃったのは、Only キリストのためなのです。イスラエルの家系は、キリストが来られるために種を生んで繋いでいかないといけないのです。そういう意味合いを持ってキリストが来られなければ、この地球に希望がないのに、長男が子どもを残さずに死んだ。そのままでは途絶えてしまうので次男がそれを繋いでやっていかないといけないよ。キリストしか希望がないよというメッセージなのに、それを復活があるないに利用しようとしているのです。聖書が何か分かっているかないので。実際、聖書を見ますと同じ状況になって、次男に長男の奥さんと結婚して子どもを生むように指示したときにオナニーをしてしまいます。つまり子どもを生むことを拒んだわけです。彼らは呪われたということが聖書に書かれています。なんでそこまでやるのとみな思うかもしれません。聖書が言いたいのは Only キリストなのです。なぜなのでしょう。霊的な事実が分かっているればそうなるしかありません。科学も医学も人間の愛情も、お金も経済も軍事力なども希望にはなりません。キリストだけなのです。悪魔のしわざが間違いなければ、女の子孫が悪魔のしわざを踏み砕く、その他には希望などはありません。

4) 世の論理から聖書を見ると矛盾だらけのように

なので、世にあるどのような立派な理論、価値観、あるいは主張でもそれが全くいらぬと言っているわけではありませんが、その理論が聖書を見ますと、サドカイ人がそう見たように、矛盾だらけのように見える場合があります。しかし、それは聖書を知らないからだけであって、彼らの基準には合わないかもしれませんが、彼らの論理と基準というものが目に見えるものだけで成り立っているあなただけのものだということクリスチャンの私たちは忘れてはいけません。だから改めて聖書を正しく知ること、これが一番肝心のポイントなのです。それで私たちが勉強しないといけないし、また耳にしなさいといけません。世の中を生きているので。しかし、教育されて耳に入ってくる世のさまざまな主張と理論などに振り回されてはいけません。それはまるで正解であるかのように、その目線で聖書を見ていたり、人生を考えたりすることはおろかなことなのです。

5) 霊的事実を基本に、Only キリストの目で

クリスチャンの私たちはあくまでも霊的事実をベースにして Only キリストの目で聖書を人生を見ないといけません。そのことを神様は今日礼拝を捧げている私たちに第 1 のメッセージとして語っていらっしゃいます。前にも申し上げましたように、特にレムナントはこれからサミットとして多くの人を助ける証人になるためには、本をたくさん読まなければいけません。本をいっぱい読むようにしましょう。しかし、そこで注意しないといけないのは、その本からヒントを得るからです。世の中に出ているさまざまな本を読むことは必要なことなのですが、そこに正解があると思っていけないです。本を漁ってさまざまなヒントを拾い上げると同時に、答えは聖書から見つける。こういう姿勢を貫いていけません。聖書を親しんでと思いながら、世の中の本などは全く無視して読まない人がいますけれども、そうするとなかなかサミットにはなれません。なので本を漁ることは非常に大切なのですが、気をつけないといけないわけです。そして聖書が何か正しく分かっているれば、神の力が何か分かるようになります。

2. 神様の力が正しくわかると、揺れない救いの確信と復活の希望をもって生きる。

これが二番目のメッセージです。聖書を正しく知り、神の力を正しく知ること、この神様から許された人生を勝利者として歩いていけるようになります。神様の力を正しく知ることができれば、そのときに揺れない救いの確信と復活の希望を持ってこの世を生きることができるようになります。

柳先生がよくおっしゃっているように Only 唯一性、再創造の答えの主人公になり、それを实际的に体験して味わうことができるようになります。なるほど、自分の努力は必要なものでしょうけれども、自分の努力と能力と関係なく上からの祝福によって私は動かされているんだということを知ることができるようになります。聖書が正しく分かっているものは、神様の力をこのように理解します。神の力を何でしょうか。

1) 創造(無>有) と管理

神様の力は創造の力です。人間にはこの宇宙には見る事ができない神様だけにある力、創造の力、何も無いところからあれ、あれと仰ることでそれが現れる創造の力を持ってこの宇宙、また人間を創造されました。創造されただけではなくて、創造された宇宙と歴史、人類を管理していらっしゃるのです。それが神の力です。何を根拠にして、どういう基準でその神の力を評価できるのでしょうか。人間にはそのような資格も能力もありません。信仰によって悟るだけです。神の力は人間と比較できるようなレベルの力ではなくて創造の力なのです。しかも創造の力と比べることはできなんでしょうが、はるかに優ると言っても過言ではない力が再創造の力なのです。神様がその御心によって作られた素晴らしい神のかたちだった人間が罪を犯して墮落して、悪魔サタンの子になり、地獄の子になり、地獄の運命に囚われることになりました。この人々をそこから引き上げて、また新しく創造し直すということは創造よりはるかに優る力なのです。

2) 再創造-エペソ 2:1-3>4-6/ヨハネ 8:44>ローマ 8:15 (救い) ヨハネ 11:25-26、マルコ 12:26

その再創造の力が何かと言いますと、エペソ 2:1-2 を見ますと、「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました」。だから、私たちは生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。このような存在を、2:4-6「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました」。これが再創造なのです。皆さんは簡単にこれを見てるかもしれませんが。この世界を創造されたそのことより、はるかに驚くべきびっくりするような神のみわざなのです。到底人間のレベルではありえません。でも神様はそれを成し遂げられました。それが再創造の働きです。ヨハネ 8:44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者」である、このような存在をローマ 8:15「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます」。悪魔の子だった者を神様を「アバ、父」と呼ぶことができる者に新しく作り変えられる力が神の力なのです。どこにこのような力があるのでしょうか。それでイエス様はヨハネ 11:25-26 において、このようにおっしゃいます。「イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」。どういう意味でしょうか。もう既に肉体的に死んだ者。でも生きていくということですね。なぜなら再創造されたから。また生きていて私を信じる者、まだ死んでない者は決して死ぬことはありません。どういう意味なのでしょう。皆死ぬでしょう。肉体的に死ぬとしてもいのちが与えられて再創造、新しく造り変えられたものなので、そのいのちは死ぬことはないという意味なのです。そのようになることが再創造、それを救いと言います。神様は罪人を救われる救いの力を持っていらっしゃる方です。創造の力よりはるかに優ると言っても良いそのような力を神様を持っていらっしゃるわけです。マルコ 12:26 には、「それに、死人がよみがえることについては、モーセの書にある柴の個所で、神がモーセにどう語られたか」「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」とあります。肉体的に死んだとしてもキリストを信じる者は神様によって再創造され、いのちが与えられて、地獄の運命から天の御国の民となり、悪魔の子から神の子として造り変えられることとなります。それが神様の力なのです。

3) 復活は十分可能-イエス様がそのサンプル

ということで、神様の力が何か分かれば、肉体が復活する、死んだ者がよみがえることは充分可能なことなのです。よく考えてみてください。死んでしまったたましい、たましいが死んだということがどういふことなのか、先ほど聖書を通して確認しました。地獄の運命に囚われていることであり、悪魔をお父さんと呼ぶ身分となります。どういう風にして助かるのでしょうか。しかし、神様はキリストを通して、キリストの血潮によって、そこから人を新しく造り変えられて神の子どもに、天の御国の民に、いのちある者に造

り変えることができた。これと肉体が蘇ることと比較するのがおかしいのですが、どちらがやりやすいのでしょうか。たましいが救われることは、この肉体がよみがえることよりはるかに難しいことなのです。なのに神様はそれをなされたわけですから、だから神様の力が分かるということは、キリストによる救いを通して一番明確に示されることとなります。救いを簡単に考えてはいけません、絶対ありえないことなのです。世の中には、どのような議論、どのような主張でも当てはまらないのです。罪人のために地獄の子に神の御子、罪のない方が十字架で犠牲になることで、しかもそこから完璧に開放されて、完璧に新しく造り変えられるのちあるものになるということはありません。しかし、神様はちょっと表現があれなんですけどやっけてのけました。

4) 神様の力は、救いを成し遂げられ、救いを完成なさる。

ならば復活というのは十分可能なことではないのか。復活がないと主張しているのは、このような救いに現れた神の力を知らないからではないのかとイエス様がおっしゃっているのです。神の力は救いを成し遂げられるだけではなくて、その救いを完成なさる力なのです。救いを成し遂げられ完成というのは再臨のときに、いのちあるたましいに肉体も一緒に蘇って合体されて、今は全部想像できません。そのサンプルがイエス様なのです。イエス様の復活なされた体と全く同じ性質を持つからだとしてよみがえられるということが約束されているのです。それは当たり前ではないでしょうか。たましいが生きています。死んでも生きていて、生きていて信じる者は死ぬことはありません。それが救いです。だから、改めてキリストによる救いがどれほど偉大なるものなのか、どれほど人間の理論、論理からは到底説明できない、はるかに上回る神様の力なのかということを改めましょう。ならば復活は当然なのです。サドカイ人たちが復活を信じなかった理由は、彼らが科学的に合わないからではなくて、聖書と神の力を知らないでいたからそうってしまったということを改めて確認して、私たちは感謝とともに聖書を知り、聖書から教えられる神の力を正しく知ることによって、私たちは勝利者になり、世にあるさまざまな主張から自由になって、それを遥かに上回る聖霊の導きによって勝利の道を歩むことができるということを改めて確認しましょう。

5) 条件や環境、状況と関係なく救いを確信し喜べる。

なので、救いから見られる神の力が分かっているならば、条件、環境、状況など一切関係なく、自分は救われたということを確認して喜ぶことができます。なぜ救いをなかなか確信できないのでしょうか。いろんな理由をまた取り上げるでしょうけれども、今日の聖書から見ますと、聖書を正しく知らない、Only キリストが分かっている、救いの神の力が何か分かっている。なので、また条件、環境、自分どうのこうのにまた振り回されるわけです。神の力は皆さんが心配しているそのすべてをはるかに上回る力をもって私たちに十分に救われる力なのです。だから救いの確信をもって喜ぶことができるし、クリスチャンが世のいる間にどのような苦難に遭っても、どのように誘惑があっても揺れることなく惑わされることなく復活の希望をもって落胆することなく信仰の道を貫いて歩けるようになるわけです。復活は当たり前なのです。なので今ある苦難や今あるさまざまな誘惑など、それに惑わされることなく、また落胆もせずに希望の道を歩く者をクリスチャンと言います。なぜでしょうか。聖書が何か分かって、神の力が分かっているのです。

結論を申し上げます。自分の論理や自分の水準で信仰生活をしようとしないうちにしましょう。キリストを信じる信仰、そして完全で永遠なる救いを与えられる神の力を信じる信仰を持って信仰生活をしようにしましょう。それを信仰生活と言います。義人は信仰によって生きる。そのために改めて聖書を通して、キリストをより深く知ること、それに集中しましょう。こだわらしましょう。さまざまなことがあるでしょうけれども、皆さんがいくら悩んでいくら研究してもサドカイ人のような愚かな結果になってしまいます。穴だらけの主張や論理に振り回されるだけなのです。それははただ参考にして聖書を通してキリストを深く知るところに優先順位を置いて集中していきましょう。それから祈りを通して、聖書から頂きましたみことばがあるからこそ、祈りを通して神の力をより深く知り体験していくクリスチャンになりましょう。それにこだわらしましょう。保証します。皆さんの人生、必ず勝利の主人公になれます。どんな条件、状況、どんな環境であろうが、必ず勝利者になりますので。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちはうっかり学校で教えられたこと、さまざま耳に入ってきた情報などによってつい世の論理にたって信仰を理解しようとする過ちを犯しがちなものであります。今日の聖書を通して、サドカイ人のような愚かな真似をやめて、聖書を正しく知り、神の力を正しく知ることにより正解があり、答えがあり。また勝利があることを改めてそれに取り組むことができるようにひとりひとりを導いてください。 イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン